

## 第18回 大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会 議事録

1. 日 時 令和6年11月8日（金）13：30～16：00  
 2. 場 所 島根県民会館 3F 大会議室  
 3. 議事録

議事	委員からの質問・意見・指摘	事務局回答・対応方針
1. 「大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会」規約	—	—
2. 広域モニタリング・環境監視について	(矢島委員意見) ・過年度のシミュレーションの結果について、バックグラウンド後の塩分実測値と予測値の値に差がある。モデルの設定等が十分でなく、検証精度が低かったのではないか。 ・シミュレーションを再実施することには賛成するが、外水位が上昇する場合だけでなく、低下する可能性も考慮する必要があるか検討した上で条件を設定すべき。	(事務局回答) ・今後のシミュレーションの条件設定については、引き続き矢島委員はじめ、委員の皆様と相談しながら進めていく。
	(細井委員意見) ・シミュレーションを再実施することには賛成するが、条件設定だけでなくモデル自体を変えるか否かの議論も必要である。 ・矢島委員の意見と同様に、外水位については上昇する場合だけでなく様々なパターンを想定することが重要。	(事務局回答) ・一次影響項目である塩分について、まずは過年度のモデルに最新データを入れ込み感度分析を行うこととしたい。
	(倉田委員質問) ・塩分について、定期観測と自動観測の値が乖離している。定期観測では、採水タイミングにより塩分に差があり、定期観測結果をシミュレーションに採用しているとのことから、この差が予測全体に影響していると思われる。 ・自動観測値を用いたシミュレーションは可能か。	(事務局回答) ・今後のシミュレーションについては、自動観測値の使用も検討する。
	(北村委員意見) ・弓ヶ浜半島の地下水塩分の長期的変化について、説明いただきたい。	(事務局回答) ・資料を提示して説明した。

議事	委員からの質問・意見・指摘	事務局回答・対応方針
2. 広域モニタリング・環境監視について	<p>(清家会長意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動観測と定期観測の測定深度は一致しているか。また、定期観測では底層の測定は行っていないのか。</li> <li>・定期観測の下層の深度について、中海は湖底から1m程度、宍道湖は湖底から60cm程度と認識しているが問題ないか。</li> <li>・宍道湖では、湖底で形成される底成層における濃度の影響が大きい。湖底から1mの位置は底成層外であり、中層や上層と変わらない値を示すため、測定深度の設定も含め検討してほしい。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動観測と定期観測の深度は概ね一致している。また、底層では定期観測を実施していないため、上層と下層で比較している。</li> <li>・下層の測定深度は、中海・宍道湖ともに湖底から1mである。</li> <li>・定期観測の測定深度について、現在の設定状況を整理する。</li> </ul>
	<p>(中村委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマトシジミとホトトギスガイの生息境界線やマハゼの遡上確認調査の目的を明確にするべき。調査箇所について、可能であれば河川中央だけでなく右左岸にも設定するべき。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査目的は、資料に明記することとする。今後の調査方法については、中村委員に相談させていただきながら検討する。</li> </ul>
3. 工事モニタリングについて	<p>(國井委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、島根県のレッドデータブックの改訂作業が行われているが、オオクグは準絶滅危惧種に据え置かれる予定であり、今後とも留意いただきたい。</li> </ul>	—
	<p>(倉田委員質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大橋川最下流左岸の寄り洲について、今後も工事等で改変する予定はあるのか。</li> <li>・基本方針に向けては、今後の工事で再び移植が必要になるのか。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備計画において、寄り洲を掘削する予定はなく、現状維持が可能であると考えている。</li> <li>・今後、掘削が必要な状況になれば、新たに移植地を確保する必要があると考えている。</li> </ul>
	<p>(大谷委員質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎島に移植したヨシについて、移植4ヶ月後に生育範囲の半分以上が消失し、生育状況も良好には見えないが、過年度に他の場所で移植したヨシにおいて同様の状況が見られたことはあったか。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度資料を確認し、個別にご報告させていただく。</li> </ul>

議事	委員からの質問・意見・指摘	事務局回答・対応方針
4. 中の島における環境保全措置と事前調査の実施状況について	<p>(國井委員質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨシの移植帯を 1/30～1/100 勾配に設定しているが、1/100 勾配を確保することは可能か。できるだけ緩い勾配の方が良い。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中の島上流側では、1/100 勾配を確保することが可能である。</li> <li>・一方、下流側では、コアマモ移植帯がヨシ移植帯の沖側にあるため勾配が急にはなるが、1/10 より緩い勾配を設定することが可能である。</li> </ul>
	<p>(倉田委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中の島の掘削により、剣先川の流量が変化し、浅い水深帯では水が滞る可能性がある。また、河道断面積が拡大することで宍道湖の水交換が増加し、宍道湖の塩分等に影響することが考えられる。</li> <li>・シミュレーションにおけるバックグラウンドとして、剣先川の掘削は含めるのか。</li> <li>・中の島掘削後の実測値と予測値との間に差が出た場合には、剣先川掘削の影響の有無を議論する必要が出てくると考える。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常時の流動については今後検討する考えであり、必要に応じて対策を検討する。宍道湖の塩分についても同様であり、再シミュレーションの状況も考慮して今後検討・報告する。</li> <li>・基本的に最終とりまとめ時点におけるバックグラウンドを条件とし、剣先川の掘削は考慮しない。</li> </ul>
	<p>(中村委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中の島掘削に伴って、底質・水質・動植物調査をされているが、大きな工事のため、これからの剣先川・大橋川にどんな影響があるのか把握することが必要である。底質調査に併せてベントス調査も実施してほしい。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベントス調査の実施状況を確認し、追加調査の必要性について検討する。</li> </ul>
5. 総括	<p>(中村委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系については一般法則のような一定の答えを示すことが難しく、様々なケースを想定する必要がある。そのため、シミュレーションや一般法則等で生態系への影響について結論を出されることを危惧している。時間をかけて個別にお話できればと思う。</li> </ul>	—

議事	委員からの質問・意見・指摘	事務局回答・対応方針
5. 総括	<p>(倉田委員意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状変化幅により工事影響を判断するという考え方に問題があると考えている。</li> <li>・生物に対する工事影響を判断するため、何を指標として設定するのか、判断が難しい。</li> <li>・環境が変化すれば生物の種構成やその量が変わるのは当然のことであるが、その変化を小さくすることを目標に取り入れるべき。</li> </ul>	<p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指標設定に関しては、再シミュレーションの結果が出ていない段階での回答は難しい。</li> <li>・状況によっては、影響の変化を抑えるために、保全措置等の実施も必要と考えている。</li> </ul>
	<p>(児子事務所長意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の気候変動の影響を踏まえた治水対策の検討を全国の河川で実施しており、出雲河川事務所も、斐伊川全体の治水計画の見直しを実施しているところである。</li> <li>・気候変動を踏まえ大橋川改修に影響があれば、あらためて河川改修による環境影響を見極める必要がある。</li> <li>・このため、次回以降の協議会では、将来の治水計画についても報告させていただきたい。</li> </ul>	—